

ARIGATT

アリガット・パリ・ブランシェー パリの食・街・人のブランシェ(最新)情報

アリガット海外ブックシリーズ 目の届く2001年7月号別冊 980yen
平成13年7月1日発行(毎月1日発行)NO.298 昭和52年4月12日第3種郵便物認可

PARIS

永久保存版

Branché

パリジャンが通う スタイリッシュカフェ&レストラン



おしゃれな隠れ家— デザイナーズ・ホテル
パリ発、食の新たな追求“FOODING”スペシャル
クラブの仕掛け人・DJ・音楽プロデューサーのインタビュー



A R I G A T T P A R I S B R A N C H É 2 0 0 1

東西に分れる 新・街のスタイル

21世紀を迎えたParisをパリ市観光・会議局局長に尋ねる

対談: クリスチャン・マンティエ×矢 幡 聡子

ラファエル・ホテル“Le BAR ANGLAIS”にて

néon 84



矢幡・モッド。アートの最先端として世界が憧れる注目のパリゆえに「フランス」という言葉が生まれたのではないかとはいえない。「流行」や「トレンド」とも違うので選択することができないのですが、パリのフランスとはどういうものなのでしょうか。流行を発信する東京、ニューヨーク、ロンドンと比べて、どう違いますか？

マンティエ・パリでは何でも流行るわけではありません。フランスの文化を愛しているパリジャンは、海外から自国のテイストに合ったものを厳選して受け入れます。ゆっくりと生まれたフランスは時間をかけて愛され、やがてそれは守り続けられる文化となっていくのです。そして伝統的な文化のなかから新たなフランスが生まれる。流行ってすたれることはありません。フランスはトラディショナルになつていくし、トラディショナルだったものがフランスになることもある。

矢幡・そうですね。「ラクーポール」「バラッジョ」「フーケ」など、古くから何世代にもわたって親しまれてきた店が、オーナーが変わったことにより今はフランスとなつていますね。歴史、文化を失わず、革新的な変化を恐れない勇気と自信、そしてその調和がパリの魅力だと感じます。この数年のパリの変革はいかがですか？



矢 幡 聡子: 本誌エグゼクティブ・プロデューサー、アリガット主幹

れて夜の雰囲気が変わりました。新しいカルチャーもどんどん誕生して、フランス・ミッドラン図書館ができた12区には最新の地下鉄14番線が走り、オフィスとアミューズメントが一緒になった新しいカルチャー、ベルシーも完成しました。

こんな具合にパリの東部にはIT関連の企業が進出したり、アーティストが集まるなど新しいカルチャーが生まれています。若くてアバンギャルドなフランスは東部から生まれているといえます。

反対に西部は静かで伝統的なものが目立ちますが、こちらからもフランスは発生していますよ。古くからあるものが変化してフランスになつていくのです。以前は「右岸・左岸」でパリは区別されていましたが、今は「東部・西部」という分け方なのです。

矢幡・ビジネス・BCBG中心の右岸とインテリ・学生中心の左岸、その区別は確かに古いわけですね。

歡樂街として栄えたピガールも、トレンドなバーが次々と



Christian Mantei
(クリスチャン・マンティ) : パリ市観光・会議局長

photographs: Manabu Sugita



84 Porte de Champerret

Par



クターも変わるみたいで(笑)。
ホテルのバーが大好きでよく利用しています。ここ「ル・バー・オングレ」も落ち着いた温かい雰囲気が気に入っています。それからジョルジュ・サンクのギャラリーにも行きます。西部で新しいレストランを見つけたときは必ず入るようになっていますし、東部の新しい店はそこそこですが、ダイナミックな演出がしてあったり、音楽を上手に取り入れていたりするので見逃しません。矢張りパリでは和の影響を受けたレストランが立て続けに増え、日本ではパリのカフェの登場からカフェ・ブームが生まれました。今日では「カフェめし」などという言葉までできています。お互いに刺激し合って良い関係を築いているように思います。

オープンしたり、カナル・サン・マルタンにもオーベルカンフからフランシエ族が集まり朝まで賑わっています。地区に限らず店の種類も広がり、週末にオープンしているお店も増え、24時間いつでも楽しめるようになりました。ところで、マンティ局長はプライベートではどのような生活を送っているのですか？
マンティ：仕事ではこんな格好をしています。外では服も気分も変えて遊んでいます。どうもスタイルが変わるとキャラ